校長室から

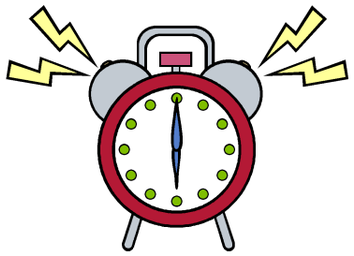
ひがしなら通心

（Ｈ３０年度）　　茨木市立東奈良小学校　川上　隆　Ｎｏ．１５

平成３０年６月１２日（火）発行

６／１０は「時の記念日」でした

「世界中の人々が、誰でも毎日、毎日、同じ量だけ使っている大切なものは何でしょう？」それは「お金」ではありません。それでは「水」はというと、人間にとって、なくては生きていけないものですが、「水」でもありません。それでは、「空気」はというと、これも人間にとって本当に大事なものですが、「空気」でもありません。



　では、何かというと、実は「時間」なのです。時間は私たちにとって、みんな平等に与えられています。私にとっての一日も、みなさんにとっての一日も、みんないつでも２４時間です。

　もし、たいへん偉い人がいて、たくさんのお金を払うから、私だけ２５時間にしてくれと神様に頼んだとしても、そんな無理なことはできません。「時間」はまちがいなく同じだけ等しく全員に与えられます。

　６月１０日は「時の記念日」といって、今から約百年ほど前に「時間を守り豊かな生活をしていきましょう」と制定されました。その昔、天智天皇が大津近江京に水時計を設置したのが、太陽暦の６月１０日にあたるところから、この記念日となったようです。「時の記念日」が制定される前の日本人の時間感覚は大ざっぱなものでした。時間に遅れる、約束は守らないなどというようなことがあったようです。人々は「お昼のドン」といって、正午の時報として陸軍省が発射する大砲の号砲に合わせて行動していました。しかし、その号砲さえ数秒ずれることはめずらしくありませんでした。今こんなことが起きたらどうでしょうか。電車に乗り遅れたり、衝突したりと大混乱になるかもしれませんね。現代の日本人は決められた時間をしっかり守ると世界の人たちから思われています。また、日本の電車や飛行機も出発から到着までの時間が世界一正確だと言われています。

　大切なことは、その「時間」の使い方なのです。時間は一度過ぎ去ると、どんなことがあっても再び取り戻せません。だからこそ、「一秒一秒を大切に」するのです。たとえ１分であっても、みんなと約束した時間を守り、人に迷惑をかけないこと、そして自分の時間を大切に上手に使うことなのです。

　また、「一秒で人を幸せに」できるかもしれません。かって、時計のコマーシャルで「一秒の言葉」というのが流れていました。「‥‥『ありがとう』この一秒ほどの短い言葉に人の優しさを知ることがある。『頑張って』この一秒ほどの短い言葉で勇気がよみがえってくることがある。『おめでとう』この一秒ほどの短い言葉で幸せにあふれることがある。‥‥一生懸命、一秒」という内容です。

　自分にとって大切な時間は、人にとっても大切な時間。自分が欲しい時間は、人も欲しい時間。「時間は宝物」、その宝物をどう使うかが大切ですね。

「仲のよい学校」100％をめざそう！

　みなさんは今まで、友だちの一言でたいへん勇気づけられたり、元気づけられたりしたことはありませんか。また逆に、その一言で深く傷ついたり、気分を悪くしたことはありませんか。

　他の友だちから言われてうれしくなったり、元気になったりする言葉を「ふわふわ言葉」と言います。その反対に、言われてイヤな気持ちになったり、悲しい気持ちになったりする言葉を「ちくちく言葉」と言います。

　「ふわふわ言葉」として、「おはよう」「ありがとう」「ごめんね」「じょうずだね」「だいじょうぶ」「いっしょに遊ぼう」「さようなら」などがありますね。人は誰でも、「よくがんばったね」とか「〇〇がじょうずだね」とか「〇〇してくれてありがとう」などと言われるとうれしいものです。やる気もわいてきます。だから、毎日の学校生活で、「ふわふわ言葉」を意識して使ってみましょう。そうすれば、友だちとのふれあいが深まったりするものです。そして、「仲のよい学校」１００％をめざしていきましょう。

みんなのためのルールブック

「あたりまえだけど、とても大切なこと」　ロン･クラーク　草思社

ルール３７　お世話になった人には、お礼を言おう

　校外学習や旅行から帰ってきたら、先生や付き添ってくれた人全員にお礼を言おう。

●なんであれ、君たちのために時間をさいてくれた人に感謝し、よい経験ができた喜びを態度で表そう。君たちのために何かをしてくれた人に感謝の気持ちを表すのは、当然の礼儀だ。